



ネット金融大手との提携で業務の可能性や幅を拡大

パリッとしたスーツを身にまとつた、ちょっとお堅いエリート——。そう銀行員をイメージする人が少ないのではないかだろうか。そんな固定観念を一蹴しているのが、『島根銀行』だ。「計算や分析はAーがやってくれる時代。では人にしかできないことは何か。相手に寄り添い、親身になってその人の人生を考えることなんです」。強調するのは、ノーネクタイにチノパンといったスタイルの高島浩希・人事財務グループ次長(40)だ。同行では2019年から女性行員の制服を廃止し、男性行員もスーツ着用義務がなくなった。「お客様のニーズは多様化しています。見た目の多様性がお客様に業務の幅広さを伝え、行員自身も意識するきっかけになれば」

り、共同店舗で証券のプロと交わることも行員の意識を刺激した。

多数の事業とグループ会社を傘下に抱える金融コングロマリットとの提携は、従来の地方銀行では展開できなかつたサービスも多数創出。トップライン支援やデジタルマーケティング支援、人材確保支援など銀行の枠を超えたビジネスマッチングを実現し、顧客のニーズを上回る効果を生み出している。

22年にはインターネット上の支店『しまホー』を開設。業界最高水準の高金利や、SBーとタッグを組んだ効果的なプロモーションなどで、開設からわずか一年余りで預金残高500億円を突破し、24年度の預金増加率は全国の地方銀行97行で2位となつた。同年には吉本興業HDと包括業務提携を結び、新商品開発などユニークな動きも見せている。25年には島根県、SBーHDとの連携協定を締結。高島次長は、「今は業界の垣根を超えて、オール島根で地域を盛り上げていく時代。そんな中、橋渡し役となるのが金融機関です。企業や地域の伴走ランナーでありたい」と話す。

「何かやつてくれるかもしない」。そんな期待を抱かせる頼りがいのある存在が、今のしまぎんだ。



**38**  
LEADING COMPANY

# 銀行の枠を超えたサービスで 人々の暮らしや地域経済を元気に

SBIグループとの連携によるさまざまな取り組みやスマートフォン支店の好調などで、全国的にも注目を集めている《島根銀行》。入行1~4年目が全行員の約2割を占め、若手の活躍も目覚ましい。

